

『稽古から学ぶ世界の中の剣道』

北海道

新十津川尚武会

小学6年生

高橋賢新

「剣道の理念」『剣道は、剣の理法の修練による、人間形成の道である。』『剣道修練の心構え』『剣道を正しく真剣に学び、心身を練磨して、旺盛なる気力を養い、剣道の特性を通じて、礼節を尊び、心義を重んじ、誠をつくして、常に自己の修養に努め、もって国家社会を愛して、ひろく人類の平和繁栄に寄与せんとするものである。』ぼく達の道場では、この言葉を全員で言う前から稽古が始まります。稽古のはじめは千本素振りです。素振りを粗末にしては、きれいな剣道でなくなり、一本一本の打突も、とても弱くなってしまいます。そのため一本一本を手首を使いしっかり打つように意識してふります。次に追いこみが始まります。追いこみは、足を速く使えるようにするためにやりますが、ぼくはもう一つ目的があると思います。それは、心をきたえるということです。なぜなら、追いこみはとてもきついです。自分のなまけたい気持ちにうちかてるよう、全力でやるからこそ、また一段とレベルが上がるんだと思います。追いこみの稽古が終わると先生方との稽古が始まります。色々な年代の先生方はぼく達のとても勝てる相手ではありません。それでも自分から積極的にかかっていくことで、相手の技から色々なことを学び、自分の弱さを知り成長することができます。最後にうちこみ稽古をします。うちこみ稽古は体力をととても使う稽古です。きつくてへこたれそうなきもありますが、常に正確に注意されたことを意識してやると、とても成長することができます。このようにぼく達の道場では、基本を正確に行うことを中心にして稽古をしています。この稽古を毎日、絶やさず努力した結果、北海道剣道練成大会・赤胴大会で優勝することができました。館長さんは「流した汗は豊かな収穫を約束する」といつも話して下さいます。ぼく達が流した沢山の汗は、大会で技を出すことができる自信になり、チームの絆を強める源になったのだと思います。これからも、日々の稽古からの学びを大切にしていきたいと考えていますが、ぼくは少し気になることがあります。それは、稽古のはじめに言っている修練の心構えの「人類の平和繁栄に寄与せんとするものである」という文です。戦争のない平和と、貧困のない豊かな暮らしを人々が平等にできるよう我々は努力していかなければならない。という意味があります。しかし、今世界では、テロや紛争が色々なところで起こっています。先日、フランスでは何も関係のない一般市民が百人以上も犠牲になったテロがありました。それと同様にシリアやイラクの空爆でも多くの犠牲者が出ています。本当に悲しい出来事です。そんなことが二度と起こらないためにぼく達に何か出来ることはないのでしょうか？

ぼくは年長のころから三年間ブラジルに住み、地球の裏側で剣道を始めました。そこでたくさんブラジル剣士と一緒に稽古をしました。言葉はまったく通じませんでしたが、一緒に剣道をしているだけで心が通いあえているような気がしました。そんな剣士達が二〇一五年五月の世界選手権で東京に来ると聞き僕は家族全員で、応援に日本武道館へ行きました。世界選手権では、五十六カ国もの国の剣士が会場に、ぼくはその多さにおどろき感動しました。日本の伝統的な武道を世界中の人が学び、剣を交えることができるという事は、日本人としてとてもうれしいことです。ぼくは、剣道の礼法からお互いを敬う心と形を学び、交剣知愛の輪を広げていくことにより、社会のむだなあそびや戦いがなくなる、そのような人間形成が剣道を通してできたら本当に素晴らしいと最近思うようになりました。

した。交剣知愛の精神が人類の平和繁栄につながり一つずつでもテロや紛争がなくなってほしいと願っています。これから僕は、勉強をおこたらず、様々な知識を学び国際社会の中で良い行いができる人間になれるよう努力していきたいと思います。最後にぼくの道場ではこれを言って稽古が終わります。三誓願「勉強をします。」「剣道をします。」「よい行いをします。」